

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立盲学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	○三重県の視覚障がい教育の中核的役割を果たすとともに、児童・生徒一人ひとりが尊重され、夢や目標に向けチャレンジできる学校	
(2)	育みたい 児童生徒像	○夢や目標（スポーツや文化的な活動、日常の課題、国家試験合格や優れた施術者になること等）を自ら定め、挑戦する児童・生徒。 ○自他の命を大切にする、人権感覚にあふれた児童・生徒。 ○仲間とともに積極的に活動し、互いを尊重し理解し合う関係を築いている児童・生徒。
	ありたい 教職員像	○視覚障がい教育に関する専門性の維持・向上に積極的に取り組み、関係機関と連携をはかりながら視覚障がい児・者の学習支援やセンター的機能の充実をはかろうとする教職員集団 ○それぞれの持ち味を十分に発揮し、互いに補い、高め合える教職員集団

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈児童・生徒〉 将来の自立と社会参加に向けて、学齢児においては「生き抜いていく力」につながる知識やスキルの習得を、成人生徒においては国家試験に合格し、希望進路が実現することを望んでいる。</p> <p>〈保護者〉 学力や基礎生活力の向上に向けて専門的な視覚障がい教育が受けられることや、将来を見通した情報提供や個々に応じた進路指導が期待されている。また、視覚障がいの特性をふまえた危機管理体制の充実が望まれている。</p> <p>〈地域〉 視覚障がいのある乳幼児の保護者への支援や他校に在籍する視覚障がい児童・生徒への学習支援、中途視覚障がい者への生活支援の充実が望まれている。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p style="text-align: center;">連携する相手からの要望・期待</p> <p>〈家庭〉 点字等の専門的な指導を充実するとともに、教育内容や進路に関する担任等との相談の機会を増やしてほしい。</p> <p>〈地域社会〉 盲学校の教育内容や視覚障がいの理解につながるような情報を発信してほしい。</p> <p>〈学校・幼稚園・保育園等〉 視覚障がい児童・生徒に対する指導について、専門的な見地から助言してほしい。</p>	<p style="text-align: center;">連携する相手への要望・期待</p> <p>〈家庭〉 本校の教育方針に対して理解と協力を進め、共通した方向性で家庭教育を行ってほしい。</p> <p>〈地域社会〉 本校の取り組みを理解し、各種行事に参加したり、啓発活動を行う機会を提供したりしてほしい。</p> <p>〈学校・幼稚園・保育園〉 早期からの適切な支援を行うべく、早めに対応できる体制を整えてほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>・社会へ送り出す側である学校にとって、キャリア教育は生涯学習社会の実現につながる大切な視点である。児童生徒の希望実現に向けて早期教育の充実も含め、視覚障がい者としての生活力を向上させ、広義での18歳までの学力保障を体系的に行っていく必要がある。</p> <p>・「本科保健医療科」「専攻科」については、中途視覚障がい者の学び直しの場であるという位置付けを明確にし、卒業後の自立した生活が継続していけるよう、関係機関と連携を密にし、アフターケアの充実も含め組織的に方策を講じていかなければならない。</p> <p>・多忙感や仕事の不公平感をなくし、より働きやすい職場環境を作っていくため、総勤務時間の縮減に向けて、引き続き会議時間の縮減に取り組んで行くとともに、各分掌や委員会での業務の精選を行う必要がある。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒数が少ないことから、社会性向上につながる教育活動には工夫が必要であるが、逆にその特性を活かし、個々の児童・生徒の状態に応じた学習（理療科においては、課外授業も含む）を設定して取り組んでいる。 ・理療科では、資格のない生徒の就職は困難な状況があり、国家試験合格を目指すとともに、就職先の確保に向けて、一層啓発を行っていく必要がある。 ・学校内における高い専門性を持った指導を担保しつつ、センター的機能として他の学校等への支援を充実させるためにベテラン教諭を派遣するという両立困難な二つの使命があるにも関わらず、本校での勤務年数の短い教職員が増えてきており、専門性向上のための研修体制を一層充実させていくことが急務となっている。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・広く県民に対して、視覚障がい児・者の子育て、教育、生活等での相談先として知られてきている反面、全県一区の学校であるため学校所在地の地域自治会等との連携が進めにくい状況がある。 ・視覚障がい者の特性を考慮した巨大地震や津波などに対する防災・減災の取り組みを一層進めていく必要がある。 ・本校の取組をより積極的に外部に発信し、視覚障がい教育について啓発していく必要がある。 ・時間外労働は一部の教員に偏っていることから、業務分担の平準化を図るとともに、全体的な総勤務時間の縮減を図る必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康管理意識、体力の向上、基礎学力の向上にとりくみ、仲間とともに、自ら進んで課題に挑戦する態度を養う。理療科においては、国家試験の合格と優れた人材の育成をめざすとともに、中途視覚障がい者の自立と学び直しのための教育課程について具体的な検討を進めていく。 ・将来の社会参加と自立に向けて、小・中・高・専と継続したキャリア教育の実践を積み重ねる。 ・教職員の視覚障がい教育に対する専門性の維持、向上をはかるため、3年間で一定の視覚障がい教育の専門性を身につけられるような研修体制づくりをめざす。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・県下全域に対するセンター的機能の充実をはかるとともに、学校所在地域との連携を強めていく。 ・児童生徒の生命の安全を第一に考え、より幅広い視点から危機管理体制の見直しを図る。 ・県内のすべての視覚障がい児・者が、本校の存在や教育内容について知ることのできる状態を目指して、教育や福祉等の行政に対する啓発を一層強化していく。 ・安全衛生委員会を中心に総勤務時間の縮減について検討し、実効ある取組を進めていく。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習・生活指導の	小学部 (1) 児童の実態に合わせた個別の指導計画を作成し、教師が協力して指導にあたることで児童の学習意欲や基礎学力を向上させる。 【活動指標】 教師間の情報交換会を月1回以上行う。時間は1時間以内とし、教材研究等の時間を確保する。 【成果指標】 個別の指導計画における個々の目標を1つ以上達成する。		※◎
	(2) 教師が点字・歩行・触察指導法の専門的な指導や支援ができる力を身につける。 【活動指標】 月1回以上テーマを決めた実践的な研修を行う。		※

充 実	【成果指標】個々の目標に対する達成率6割以上。	◎※
	【 中学部 】	
	(1) 生徒の学習意欲及び基礎学力を向上させるとともに、自主的に学習に取り組む態度の育成を図る。	
	【活動指標】個々に応じた指導をするため生徒についての情報交換を年10回行い、実態を的確に把握する。	
	【成果指標】個別の指導計画における個々の目標を1つ以上達成する。	
	(2) 仲間とのつながりを意識させ、社会の一員として自立するためのソーシャルスキルの向上を目指す。	※
	【活動指標】仲間と協力して取り組んだり、日常生活経験を豊かにしたりする学部単位の校外学習を年3回実施する。	
	【成果指標】あいさつや援助依頼等個々のソーシャルスキルに関する課題について向上が見られる。	
	【 高等部 】	
学 習 ・ 生 活 指 導 の 充 実	(1) 生徒の実態を的確に把握し、個別の指導計画に基づいて、基礎・基本および人権教育を重視した授業実践に取り組み、個々に応じたきめ細やかな支援のもと自主的に学習できる生徒の育成を図る。	◎※
	【活動指標】学部会で月1回生徒の情報交換を行う。年間11回実施。	
	【成果指標】各生徒の個別の指導計画年間目標1項目以上達成。	
	(2) 自立活動の時間を中心として人を思いやる気持ちを育むとともに、思考力・判断力・コミュニケーション力・情報活用能力等の習得のための支援を行う。	※
	【活動指標】年度初めと各学期末の年4回 自立活動検討会を実施。	
	【成果指標】全生徒が将来の進路や日常生活の目標を明確にできる。	
	【 理療科 】	
	・ 国家資格取得に向けて、個々の生徒の実態に応じた指導を充実させる。	◎※
	【活動指標】長期休業中の計画的な課外授業の実施、実力テスト・模擬試験を年5回実施する。	
	【成果指標】国家試験全員合格	
	【 寄宿舍 】	
	舎生の実態を的確に把握し、一人ひとりに応じた支援・指導の充実を図る。	◎※
	【活動指標】	
	(1) 保護者、学級担任、舎務部と連携を密にし、学期に1回以上懇談を実施し情報共有する。	
	(2) 舎職員会、舎研修会で職員間の指導の統一を図り、寄宿舍作成の個別の指導計画を基に、成果と課題を毎学期検討する。	
	【成果指標】	
	(1) 100% 実施。	
	(2) 個別の指導計画における個々の目標を1つ以上達成する。	

学 習 ・ 生 活 指 導 の 充 実	教務部	<p>(1) 個別の指導計画の作成と効果的な活用を進める。</p> <p>(2) 人権教育を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) ①作成と活用について、教員に指導的立場を担う。</p> <p>②目標や指導内容について、関係者が情報共有を行い、指導の改善に努める。</p> <p>(2) 道徳教育の全体計画の実施状況や各教科の指導内容を定期的に把握し、改善に努める。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) 各学部教務担当者および道徳担当者が学期に1回実施状況を把握し、年度末フィードバックを行う。</p> <p>(2) ①学部会等で作成と活用について助言を行う。</p> <p>②当該児童生徒の担任団や担当者が指導目標・内容を定期的に確認し評価する。(各学期2回)</p>	◎※ ※	
	生活保健部	<p>健康診断・身体測定を通して、自分の体を知り、日常生活において基本的な生活習慣を身に付け、健康的な食生活を送り、健康の維持、体力の向上を図ることのできる児童生徒の育成を目指す。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 児童生徒自身が健康状態を把握し、健康の保持増進の意識を高めるため、各種健康診断を実施。</p> <p>(2) 自分の体と健康に関する知識を持ち、健康的な生活を養うため、身体測定を月1回実施。</p> <p>【成果指標】 (1) 全ての検診において受診100%</p> <p>(2) 月1回の身体測定参加100%</p>		◎※
	情報メディア部	<p>(1) 人権教育に関連する蔵書を拡充する。</p> <p>(2) 最新の支援機器やICT機器に関する使い方や指導方法をサポートする。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 視覚障がいに関する文献、医療問題に関連する資料等を5部以上導入。</p> <p>(2) 視覚障がい者向けICT研修会を年1回実施する。</p> <p>【成果指標】 (1) (2) 100%実施。</p>		
	研修部	<p>教員の視覚障がい教育に対する専門性を向上させ、適切な指導や支援ができるようにする。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 次の研修を実施する。研修会は定時に終了する。</p> <p>転入職員のための新任研修; 4回、学部研修・寄宿舎研修; 10回 全体研修; 6回</p>		◎※

	<p>(2) 視覚障がい教育に関する校外での研修会に積極的に参加する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) 事後アンケートによる満足度80%以上。研修会の定時終了80%。</p> <p>(2) 年間のべ4回以上校外での研修会に参加し、全体への還流を行う。</p>		
キャリア教育の充実	<p>全学部 生活保健部</p> <p>自他の命を大切にし、いじめを許さない学校づくりを推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>保護者との懇談を年4回、いじめアンケートとそのフィードバックを児童および保護者へ年3回実施。</p> <p>【成果指標】</p> <p>いじめ0。いじめ事象の発生時は迅速に適切な対応をとり、解消および再発防止に努める。</p>		◎※
	<p>教務部</p> <p>個別の指導計画の作成と効果的な活用を進める。</p> <p>【活動指標】 キャリア教育と連動した活用を進める。</p> <p>【成果指標】 指導目標にキャリア教育の項目または達成に関連した項目を入れる（児童一人につき1つ以上）</p>		◎※
	<p>支援部</p> <p>キャリア教育プログラムに基づいた指導の充実をはかるとともに、自分や他人を大切にする心を育て、個々の障がいの状況に応じた希望進路の実現に向けて取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>年度の初めに各学部でキャリア教育プログラムに基づいたチェックを行うとともに個別の指導計画の目標に具体的に反映させる。</p> <p>【成果指標】</p> <p>個別の指導目標について各学期末ごとに目標の達成度について確認・記入し、保護者と懇談を行う。</p>		◎※
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
センター的機能の充実	<p>支援部</p> <p>(1) 視覚障がい乳幼児とその保護者が安心してかかわれる早期教育の実現と充実。</p> <p>【活動指標】</p> <p>盲学校内での活動として「幼児教室」を月2～3回、「親子のつどい」を年間9回、「でアイふれアイ相談会」を年8回実施する。加えて、保</p>		◎

	<p>護者、関係機関向けの「講演会」を2学期末をめぐりに年1回企画・運営する。</p> <p>【成果指標】 講演会后、事後アンケートを行い「よかった」の項目について、保護者の満足度「80%以上」</p> <p>(2) 来校、巡回教育相談の充実と通級指導の体制確立。</p> <p>【活動指標】 県内全市町の教育機関を対象に、巡回、来校等による必要な支援(外的、内的環境支援、研修会講師、進路相談、保護者支援等)を必要な回数実施する。</p> <p>【成果指標】 全てのケースについて個別の巡回記録ノートを作成する。</p> <p>(3) 視覚障がい児・者理解に向けた啓発活動の推進</p> <p>【活動指標】 5月10月を中心に県下全市町の福祉行政機関訪問を行い、関係機関に働きかけを行うとともに、各市町の行事等に参加し盲学校啓発活動を行う。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県下29市町の関係機関を2回ずつ訪問する。 ・ 5市町以上で盲学校啓発活動を行う。 		※
地域との連携	<p>生活保健部 学校祭等に自主的、積極的に参加し、仲間と共に協力する態度を養い、地域社会や他校との活発な交流を図る。</p> <p>【活動指標】 アンケートにより満足度を把握。</p> <p>【成果指標】 事後アンケートにより、「参加してよかった」という回答80%以上。</p>		※
	<p>情報メディア部 地域の点訳等のボランティアグループとの連携・協力を図る。</p> <p>【活動指標】 年3回程度、地域のボランティアグループを招き、お話を会を実施する。</p> <p>【成果指標】 参加者の事後アンケート満足度80%以上。</p>		※
	<p>総務部 地域住民が参加できる行事等を実施するとともに地域の活動や行事に参加し、双方向での連携を進める。</p> <p>【活動指標】 情報発信、呼びかけ及び地域の情報共有を進める。</p> <p>【成果指標】 双方向に年間2回以上の機会を設ける。</p>		※
危機管理体制の強化	<p>生活保健部</p> <p>(1) 学校給食における事故等防止への校内体制の強化</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食物アレルギーや疾病に起因する食事制限への除去や代替等の対応、および異物混入を未然に防ぐために複数での対策を行う。 ・ 非常事態時の対応マニュアルを作成する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異物混入無し100%。 ・ 非常事態時の対応マニュアルの完成と共有。 <p>(2) 自らの命を守るため、防災・減災に対する意識を高く持ち、視覚障がい者の特性を考慮した安全行動がとれるように避難訓練等を通して、危機管理体制の充実を目指す。</p> <p>【活動指標】 年3回避難訓練を実施。(通常避難訓練・抜き打ち避難訓練・スクールバス避難訓練)</p> <p>【成果指標】 チェックシートの提出率100%</p>		◎※
			※

	<p>寄宿舎 災害に対する危機管理意識を強化する。</p> <p>【活動指標】 (1) 年4回(地震、火災、不審者対応、夜間火災)の避難訓練と事前事後指導を実施する。 (2) 舎職員会、舎務部会で、計画案の提案時から、実際の災害を想定し検討する。</p> <p>【成果指標】 (1) 参加者全員が安全で迅速に避難できる。 (2) 年度末の反省による舎生・職員の危機管理意識の向上率UP。</p>		※
職場環境の向上	<p>(1) 総勤務時間を縮減する。</p> <p>【活動指標】 ①時間外労働時間の縮減について、安全衛生委員会が中心となって組織的な改善に取り組む。 ②定時退校日(もう帰るデー)を月1回設定する。 ③学校閉校日を夏季休業中に3日設定する。</p> <p>【成果指標】 ②③100%実施。</p>		◎※
	<p>(2) 会議時間を短縮する。</p> <p>【活動指標】 ・会議を1時間以内または、勤務時間内に終了する。 ・会議の時間短縮のため、検討に時間を要する内容は、回覧やメールで事前把握する。</p> <p>【成果指標】 達成目標率80%以上。</p>		※
	<p>(3) 障がいのある職員への「合理的配慮」の一層の充実を図る。</p> <p>【活動指標】 ・支援の依頼しやすい職場環境づくりに努める。 ・事前テキスト配信等、情報共有の遅れがないように努め、学期ごとに状況の確認をする。</p> <p>【成果指標】 配慮に対する満足度、全員「概ね満足」以上。</p>		※
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)